

# グアムの自然体験とこころの交流

## 感動・感激の毎日!!

今年で、十一回目となるグアムへの青少年海外派遣事業。今回は、八月二十四日から二十七日までの日程で、十九人の中学生を派遣しました。生徒たちは、現地中学校との交流や、原住民チャモロ民族の村での研修などを通してグアムの風土や文化を直接肌で感じ、日本では経験することの出来ない四日間を過ごしました。参加者の感想を紹介します。



チャモロ民族村での集合写真

### グアムで学んだ事

一年二組  
大橋祥子(長池)

私は、外国の人といるる触れ合ってみてから今回参加しました。初めての飛行機にビックリし、四日間どんな体験ができるか楽しみにました。二日目、チャモロ民族村で、現地の生活について話を聞き、ココナッツの葉編みやロープ作り、チャモロの子どもが遊んだ物などいろいろ体験しました。そこで、チャモロの人々は、自然の物すべてを生活に役立つ道具などに使っていることに驚きました。

でも、中学校に着くとイナラハンの子は、ぜんぜん緊張感などなく私たちを笑顔で迎えてくれてとてもうれしかったです。校内では、廊下を歩いていると、私に笑顔を求めてくれたり、気軽に握手を求め、名前を聞いてくれたりしました。このように、校内が先輩、後輩、男女関係なしに仲が良いことにビックリし、自分たちの学校でもこうなればいいなと感じました。



イナラハン中学での校内見学の際の様子  
教室に入った時、私はすごく緊張していたけど、イナラハンの子は笑顔でむかえてくれてすごくうれしかったです。

### グアムで学んだ 気持ちの伝え方

二年一組  
杉村修平(北及)

僕がグアムに行つて印象に残ったのは、気持ちの伝え方、コミュニケーションの難しさです。それを、一番感じたのは、イナラハン中学校での交流会の時

でした。自分なりに慣れていない英語で話しても相手に通じず、また、相手から話し掛けられても理解できず、しどろもどろになってしまいました。しかし、唯一分かったのが、ジェスチャーでした。会話の中で時々相手がしてくれたジェスチャーで相手の気持ちが理解できました。また、遊びやスポーツを通じて、相手の気持ちが通じ合え

ることも学びました。イナラハン中学校では、全生徒が同学年のようなフレンドリーな感じがしました。自分の学校でもそうなればいいなと思いました。今回の研修では、言葉の通じない外国人でもジェスチャー等で気持ちを伝えられることを学びました。今思えば、もっと積極的に交流をすればよかったと思いました。

### チャモロ人の暖かさに 触れて

二年三組  
河村ちなみ(松栄町)

私が今回の研修で一番ビックリしたのは、人がみんな温かいことです。

一日目、お店に行ったとき、まったく知らない店員さんに「ハツファデー」といえば、笑顔で「ハツファデー」と返してくれました。グアムの人たちの心の温かさを肌で実感することができました。

二日目、チャモロ民族村ではココナッツの葉でいろいろな物を作る体験をしました。難しく苦勞しましたが、いい経験をしました。サンセットクルーズでは、船の中では他の観光客とも交流が出来ました。

三日目はイナラハン中学校との交流でした。交流会では、パートナーを組んで校内案内や出し物などをしました。パートナーの子が、いろいろなことを話しかけてくれましたが、何を言っているのか分からないので「sorry」としか言うことができません。申し訳ないと思いました。しかし、私なり



ココナッツオイル作りの様子  
はじめての体験で、とても難しかったです。でも楽しかったです。

の英語でも通じましたし、相手も私なりに分かる様に言葉を選んで話してくれました。グアム研修に参加し、自然や文化に触れ、外国人の心の温かさを感じ、日本では分からない皆さんの大事なことを得ることができました。今後、もっといろいろな国の自然や文化に触れてみたいと思いました。



折り紙を教えたときの様子  
言葉は通じないけど、出来上がった時はうれしかった。



ヤシの皮を使った縄作りの様子  
とても難しく何回もやり直し、大変だった。

